

町田市立図書館メールマガジン（2026年2月15日号）

みなさまこんにちは、町田市立図書館です。
メールマガジンを配信します。

図書館職員おすすめ本

『もこ もこもこ』
J-I / 谷川俊太郎 / 文研出版 / 1989年

谷川俊太郎さんの絵本『もこ もこもこ』は、1977年に初版が出版された作品で、絵は元永定正さんが手がけています。この絵本は、谷川俊太郎さんの詩的な感性と元永定正さんの抽象的でカラフルなイラストが組み合わせられた、非常に独創的な一冊です。

『もこ もこもこ』は、ページをめくるごとに変化する形と色彩が生み出す音や感覚を表現しており、言葉の響きと絵が織りなすリズムカルな世界を楽しむことができます。このような構成は、特に乳幼児の好奇心や想像力を刺激し、言葉と絵の持つ力を最大限に引き出しています。

私が保育園にいた頃、ずっと読んでいた印象に残っている絵本です。当時はこの本が、ほんの少し怖いと感じていましたが、逆に好奇心をそそられて読んでしまうという不思議な魅力がありました。

この絵本を読み聞かせなどで使う場合、視覚と聴覚の両方で楽しむことができるでしょう。乳幼児から幼児向けのおすすめの本です。

（児童担当K）

『オオカミ族の少年（クロニクル 千古の闇1）』
Y933-ペ / ミシェル・ペイヴァー / 評論社 / 2005年

紀元前4000年の太古の森、父親と野営をしていたオオカミ族の少年トラクは巨大なクマに襲われて父親を亡くす。クマは単なるクマではなく、ある魔導師によってよびだされた悪霊が姿を借りたもの。トラクは父親が遺したわずかな言葉を頼りに、この悪霊の化身であるクマを倒すために歩き始める。連れは、洪水で家族を失った生まれて4か月ほどの子オオカミ、ウルフ。読者はいきなり太古の森に引きずりこまれ、濃厚な森の匂いを感じつつ、巨大なクマを恐れ、トラクそしてウルフとともに歩き始める事になる。暖房の効いた部屋から、肌を突き刺す寒ささえ感じる太古の森へ、ちょっと遠出をしてみませんか。（シリーズ全6巻の幕開けです。）

p. s. 訳者のさくまゆみこ氏はちょっと町田市ゆかりの方です。

（書庫ずき）

『詳説世界史図録』
Y209. 03 / 木村靖二 / 監修 / 山川出版 / 2020年

『詳説日本史図録』
Y210. 03 / 詳説日本史図録編集委員会 / 編 / 山川出版 / 2020年

山川出版の高校歴史教科書、「欄外の細かい字の文章からテストに出るらしい！」という噂も懐かしい思い出。この『図録』は、その欄外情報のように貴重な図や写真の情報が満載！眺めているだけでも楽しいのですが、利用者さんの質問にお答えするのに役立ったことも何度もあります。明治憲法制定の式に女性は参列した？日本初の時計は？ページをめくって是非確かめて下さい。図などに関するクイズと解説もあります。（世界史：「読み解き図版解説・主題学習解答例」）（日本史：各ページの欄外のQ & A）

（いにしへの高校生）

『ペリリュー -楽園のゲルニカ-』
Yマ / 武田一義・著、平塚証緒（太平洋戦争研究会）・原案協力 / 白泉社 / 2016年

ペリリューはパラオ諸島にある美しい島の名前です。かつて、太平洋戦争の激戦地の一つとなりました。

昭和19年夏、ペリリューを占領していた旧日本軍1万人に対し、アメリカ軍は約4万人の兵力を投入。2か月半に及ぶ戦闘は、島の岩山の形を変えるほど熾烈を極めました。

日本軍は玉砕し、わずかに生き残った兵士たちは物資の補給も望めず、アメリカ兵の影におびえる過酷な日々を送ります。1万人のうち、戦後日本に生還できたのはわずか34名でした。

作者は、田丸一等兵というマンガ家を夢見る穏やかな青年を主人公に、温かみのある絵柄で、過酷な戦場を静かに描き出します。田丸一等兵は絵の腕を買われ「功績係」という戦死した仲間

の最期を家族に伝えるために記録する任務につきますが、読者である私たちは、主人公が綴る戦場の日々を通して戦争の悲惨さを追体験することになるのです。

また、本作には生き生きとした仲間たちが登場します。共に日本に帰国することを誓い合う親友、癖の強い先輩兵たち、苦渋の決断を迫られる上官たち…。読み終わったとき、ペリリュー島で戦った日本兵の多くが20代の若者であったことを知り、胸が締め付けられます。

高い評価を得た本作品は、2025年12月に劇場アニメが公開。同じ年のニュースでは、ペリリュー島の中央部で1000人余りが埋葬されているとみられる、集団埋葬地が見つかったと報道されました。これを受けて国は、集団埋葬地の全員分の遺骨を収容することを目指す方針を発表しています。

温かい絵柄と誠実な筆致、なによりマンガという表現方法を用いて戦争を描いた本作品。多くの方に手に取ってもらえたらと願っています。

(秋のキリン)

『しんどいからおもしろいねん』

H369. 2-ノ／野々村光子／コトノネ生活／2024年

第1編「ゴミ屋敷の住職」のはじまりは、「死にそうじゃ。助けてくれ」。電話でそう叫ばれ、車を走らせ辿り着いたゴミ屋敷。暗い部屋から出てきたうつろな目をした男から、コップに浮かんだ埃と何かの粉でデコレーションされたファンタオレンジでおもてなし。「「何やる？」思いながらいただく。」ええっ、飲むの？と驚き、冒頭からグイッと引き込まれる。

「滋賀県東近江圏域働き・暮らし応援センター“Tekitoー”棒芯」で、相談総括役として働いている、野々村光子さんの初エッセイ集。幼い頃から障がいのある人が自宅を出入りするという環境で育った彼女。だからなのか、彼女には人を受け入れないという選択肢がない。うわべや綺麗事ではなく、心からそう思っている。それはこの本の「まえがき」からもうかがえる。「10年風呂に入っとらん男前も」「うまいこといかんを繰り返して、刃こぼれした刀を自分に向けとる彼も」「かつこええねんなあ。」「そんな大人に囲まれる私の時間は、世界への自慢や。そやろ？」。

季刊『コトノネ』で連載された、彼らと働くよろこびにあふれた日常のものがたり22編に加え、書下ろし5編を収録し書籍化した作品。『コトノネ』は2025年11月に惜しまれながら休刊したが、15年間障がい者の働く姿を通して、生きるよろこびを伝えてきた。創刊当時、発行元が町田市にあり、町田市立図書館には創刊号から全号所蔵している。こちらもおすすめ。

(りんごの棚)

=====

町田市立図書館

ホームページ：<https://www.library-machida.tokyo.jp/>

X：https://x.com/machida_library

◆メールマガジンのバックナンバーは、町田市立図書館ホームページからご覧いただけます。

◆メールマガジンの配信停止、メールアドレスの変更等は、町田市立図書館のホームページからお手続きください。

=====

2026年2月15日発行